

# 教職支援室便り（8月号）

令和4年 8月15日（月）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教員採用選考試験（第一次試験）終わる

第一次試験が終わりました。学生の皆さんは、それぞれ緊張感の中で、試験に臨んだことでしょう。しかし、試験に対しては、これまで、積極的に筆記試験等の対策に取り組んできたことが、心の拠り所になったと思います。昨年10月から本年6月下旬にかけて、50コマ以上の特別講座に取り組むとともに、自宅等での自主学習に励んできたことは、何よりの財産です。試験結果が気になるとは思いますが、「やれることは、すべてやった。」という自信を、大切にしてほしいです。

次に、学生の皆さんの現在の思いを紹介します。

### <これまで特別講座を受講しての感想>

### <採用試験を受験しての感想・二次試験への思い>

これまでの特別講座を通して、教職について理解を深めることができた。知識としてはもちろんだが、これから教師として実践をしていく上でも、活かせる力を身につけることができたと思う。また、教師になりたい、教師として子供たちの成長に関わっていききたい、という思いが強くなった。二次試験に向けて、これまでの学びを大事にしなが、沢山努力をして合格を掴み取りたい。

正直、高校受験より大学受験より緊張しました。しかし、試験が始まり、問題を見ると、これまで特別講座で演習してきた問題や、一度見たことがある問題がほとんどだったので、落ち着いて問題に取り組むことができました。この受験期間、たくさんの助けがあって乗り越えられました。また、これまで以上に教育に関することに対して多くの時間を費やすことができたので、さらに教師になりたいと思う気持ちが強くなりました。この思いを忘れず、次は二次試験に向けて対策をしていきたいと思っています。

10月から特別講座を受講し、多くの問題を解いたことによって、教育に関することをたくさん学ぶことができました。ただ教えてもらうのではなく、自分で考えて解いたり、友達と話し合ったりすることで、知識が身に付いていくことを実感しました。また、願書等を書いたことによって、自分のことを振り返り、これまでどんなことをしてきたのか、これから何がしたいのかを考えることができました。これらのことを生かして、二次試験の面接、模擬授業、グループワークの演習に取り組んでいきたいと思っています。

私は、今回試験を受けて、専門の出題方法が前年までと変わっていたので驚きました。今回は、11教科全部が選択問題方式になっていました。専門の試験で、特別講座の時に曾我先生から頂いたプリントの中から、同じような問題が出ていたので、解くことができました。悩んだりつまずいたりしてしまった問題もありましたが、自分の今できる力を存分に出せたと思います。どんな結果であっても一次試験の自分に後悔はないです。ひとまず10月から7月まで、曾我先生ありがとうございました。

試験本番の日はやはり緊張しましたが、これまでの特別講座の中でみんな一緒に頑張った日々を思い出し、自信をもって試験に挑むことができました。試験問題では、対策してきた内容がたくさん出ていたし、見たことのない問題でも持っている知識を応用して、解くことができましたと思います。特別講座で様々な分野を学び、深めたことで、「教師」という職業に対する憧れが強くなりました。二次試験に向けての対策も頑張ります！

特別講座が始まる前は、学習内容の多さから、これからどのように学んでいけばいいのか不安を感じていました。しかし、講座で何度も問題を解くことで、ポイントを押さえながら学ぶことができ、ただ知識を蓄えるだけではなく、教師として求められることなどについても考えることができ、充実した時間を過ごすことができました。約1か月後には二次試験が待っています。悔いが残らないように、後半戦はさらに気合をいれて、ベストを尽くせるように頑張っていきたいです。

教採一次を終えて、特別講座での取り組みが、とても大きな自分の力になっていたことを実感しました。それぞれの法規や答申に関する問題を、ひたすら繰り返し解くことで、自分でもあまり自覚のないうちに知識として定着していました。そのおかげで、自治体の過去問を解いていてもほとんど触れたことのある問題で、自分がどの範囲の知識の定着が甘いのかということを確認することも容易にできました。そしてもちろん、試験当日もあまり焦ることがなく、問題を解くことができました。二次試験に向けても、特別講座を中心にしっかり対策をしていきたいと思います。

これまでの特別講座を受けた自分を振り返ると、初めの頃に比べて、自分自身の教師としての目標がより明確になり、子どもたちに関わっていきたいという気持ちが、さらに強くなりました。特別講座を受講して本当によかったと思います。様々な演習問題を解いたり、ともに講座を受講している仲間の意見や、曾我先生の長い現場経験からくる貴重なお話を聞いたりしながら、教師として自分がどう在りたいか時間をかけて、ゆっくり考えがまとまりました。

そして、現在、二次試験対策の特別講座も、第5週に入りました。学生の皆さんが、コロナウイルス対策を徹底しながら、週計画として「15コマから20コマ」のプログラムを立て、週ごとの課題を設定して、演習が行われています。私も、学生の皆さんと貴重な時間を、共有しています。学生の皆さんの「やれることは、すべてやりたい。」という思いを受け、私自身も、「やれるだけの支援は、すべてやりたい。」という思いです。次頁には、現在の特別講座の状況を紹介しています。

# 現在の教職特別講座・状況報告

## 面接演習

面接のオリエンテーションでは、2つの人物評価の視点(①教職への情熱、人柄、適性等、②教職教養に関する知識・理解)について、試問例を示しながら解説しました。全国的な傾向としては、教職への情熱、人柄、適性等についての試問(通常試問)が多く行われています。しかし、教職教養に関する知識・理解(教職教養試問)を取り入れている自治体もあることから、受験自治体によっては、教職教養試問も交えて演習しています。また、本年度は、試問数388で構成される試問集を作成し、演習に役立てています。

面接演習の始めは、面接に慣れるために集団面接の形態で行います。そして、徐々に個人面接の形態とし、私の方で受験自治体に応じた試問をしながら、回答内容への助言をしています。この演習を重ねる中で、学生の皆さんの面接力が向上していきます。面接力とは、「自分の考えを率直に述べ、教師になりたい思いを、初めて出会う人に(面接者)に、言葉にのせて伝える力」です。この面接演習についても、多くの時間を要しますが、時間の経つのも忘れるほどの取組が見られます。そこには、面接力の向上とともに、教師力を高めている学生の皆さんの姿があります。



<集団面接演習>

## 模擬授業演習



<小学校模擬授業演習>



<中学校模擬授業演習>

模擬授業については、受験校種(小学校、中学校・高等学校)によりグループを編成し、それぞれの課題を踏まえながら、実践的な演習を行っています。本年度も、模擬授業の目的、評価の視点、評価項目、面接者の試問例、留意事項等についての、オリエンテーションからスタートしました。

模擬授業の中で、特に支援していることは教材解釈です。模擬授業の回数をこなすだけでなく、教材の見方・考え方(指導のポイント、魅力やおもしろさ、むずかしさ)等を助言することが重要です。この取組は、模擬授業を目的化せず、それぞれの校種の、教員に係る資質・能力(授業力)につながることを、期待してのものです。具体的に小学校の国語科で言えば、「詩、物語文、説明文、作文、俳句」などの教材解釈を通して、授業の楽しさを体感するということです。中学校・高等学校の英語科については、本学の英語科の先生に指導助言をお願いしています。また、宮崎県では本年度から、小学校の模擬授業試験に「道徳科」が加わりました。「道徳科」の読み物教材を活用した模擬授業演習にも、積極的に取り組んでいるところです。

学生の皆さんには、日を迫うごとに、模擬授業力向上への意欲の高まりが見られ、発問にも深まりが感じられるなど、力を付けているのがわかります。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ63）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「限りなく愛情を伝える家庭教育の在り方～就学前の子どもたちへ～」をテーマにまとめました。

## ◇ はじめに

- 就学前に身に付けたいことは、何でしょうか。
- 大切なことを身に付けさせるためには、どのように限りなく愛情を伝えていけばよいのでしょうか。

## 1 思いを巡らせること

### (1) 「思いを巡らせること」とは

- 「思いを巡らせる」中で、思いやりの心（思いを遣わす心）が生まれます。
- 実際に経験していないことを、想像する（思いを巡らせる）ことです。思いを遣わすということです。（例・「ここにごみを捨てたらどうなるかな？」）
- 絵本の読み聞かせは、「思いを巡らせる力」を向上させます。

### (2) 絵本の読み聞かせ

- 絵本の読み聞かせは、「思いを巡らせる力」を養います。親子で絵本の世界に入り込み、登場人物の心に思いを巡らせてください。
- 読書は「豊かな心」を養います。自然を見る目が豊かになり、更には人を見る目も豊かになっていきます。
- 読み聞かせは、子どもの「言葉の力」も養います。多くの言葉に触れ、語彙も増え、言葉で表現する力も付いていきます。読んで、「〇〇さんは、どう思ったのかな？ どれだけうれしかったのかな？」などと、聞いてください。

## 2 家庭でできる道徳授業

### 教材「かぼちゃのつる」

- わがままをしないで生活をしようとする心を育てるために、この資料を活用します。
- あらすじは、「主人公のかぼちゃは、みんな（みつばち、ちょうちょ、すいか、こいぬ）の注意を聞かず、道を越えてつるを伸ばしていききました。そこへ、荷物を積んだ車がやってきて、かぼちゃのつるはひかれて切れてしまい、泣いてしまいます。」という内容です。
- この道徳授業は、家庭でもできます。
  - (1) かぼちゃさんが、わがままをしていたり、悲しんでいたりとしているところに気をつけて読もうね。
  - (2) お話をふりかえってみよう。
    - ・かぼちゃさんが、わがままをしているところ
    - ・かぼちゃさんが、悲しんでいるところ
  - (3) わがままをしているときや、悲しんでいるときのかぼちゃさんの気持ちを考えよう。
    - ① ぐんぐんのびているときのかぼちゃさんは、どんな気持ちだったかな？
    - ② みつばちとちょうちょに言われたとき、どんな気持ちだったかな？

- ③ すいかのつるやこいぬから言われたときは、どんな気持ちだったかな？
- ◇ せっかくだつるをのぼしているのに、じゃまをされるとおこるよね。かぼちゃさんになって、言ってみよう。
  - ◇ 自分のやりたいことはやりたいよね。でも、何かおかしい気がするけど。
- ④ かぼちゃさんは、つるを切られたとき、なみだをこぼしながら、どんなことを思ったかな？
- ◇ かぼちゃさんに、何か言ってあげたいことはないかな？

心を育てることは、基本的な生活習慣の育成にもつながっていきます。  
あいさつは、相手への思いやりの表現です。

### 3 基本的な生活習慣

#### (1) あいさつ

- コミュニケーション力を育てる基礎は、「あいさつ」です。
- しつけとして、「あいさつ」するよう言うだけでは身に付きません。目を合わせて、心の通い合いを感じる事が大切です。
- 「あいさつ」のよさを体感させること。相手を思い、あいさつを交わすと、気持ちがいいと感じさせる事が大切です。

#### 「あいさつ」の場面

- 朝「おはようございます」、昼「こんにちは」、夕「さようなら」など、あいさつをする場面で、あいさつができたことをほめてあげます。
    - ・「よくできたね。とても気持ちがよかったよ。」
    - ・「とてもよくできたね。とてもえらいと思うよ。」
  - あいさつで心が交流し、まだよく知らない人に対しても、心を開いてかかわっていきける力を付けていくことは重要です。
  - 「就学前に、返事ができるように・・・」と言われてますが、他の人との関わりの中でできるようになります。しつけとして、形式的に教えるだけでは効果はありません。
- (2) 道徳性の発達
- この期の子どもたちには、価値あること（よいこと）についての意味付けを、しっかりしてあげることが大切です。また、お手伝いをした場合においても、ほめられることで、自分のしたことは価値があると体感します。